



感謝、感謝の2年間

第20代校長 桑田 郁男

私は平成24年度、25年度の2年間校長として立江中学校に勤務しました。立江中学校での勤務はこの時が初めてでしたが、地域の方々や保護者の皆さまに支えられ大変恵まれた環境で勤務することができました。今でもたいへん感謝しています。

長い立江中学校の歴史の中で、保護者や地域の方、そして先輩の先生方や生徒たちがすばらしい校風を築いてくれました。その中で、2年間ではありますが勤務できたことを誇りに思っています。

立江中学校の生徒たちは何事にも一生懸命で真っ正面から取り組む生徒たちでした。毎日の早朝の基礎トレーニングから始まって、授業、清掃、部活動と常に全力投球をしていました。そして、さわやかなあいさつは何か心が通う気がしてうれしいものでした。

また、特色ある学校行事をたくさん実施していました。キャリア教育研究に基づくキャリア教育のプログラムが脈々と受け継がれており、そのほかにもたくさんの特長ある学校行事が行われていました。文化祭・運動会はもちろんですが、職場体験・福祉体験・農業体験や日の峰登山と飯ごう炊さん、立江保育所との交流、マラソン大会や陸上競技大会などがあります。

ある時期に行事の精選を図るため、すべての行事について意義等を見直しましたが、どの行事も意義深いものであり、生徒たちのその行事にかける思いを考えると、どうしても必要であるとの結論に至りました。私の在任中は、行事を通して、自主性や創造力を伸ばし、それぞれの生徒が活躍する場面をたくさんつくること、そしてその中でたくさんの感動体験をするとともに、個性や長所を伸ばすことを図りました。結果として、生徒たちは互いに協力しながら個性を発揮して思う存分活躍し、大きな感動を得ることがよくありました。これらの学校行事を通して生徒たちは大きく成長してくれたと思っています。

地域の公民館とも連携が図られており、立江公民館と櫛淵公民館の皆さまにはたいへんお世話になりました。特に喜田貞吉博士の学習では、櫛淵公民館の岡田館長様や生家の喜田様にご尽力いただき、現地でのフィールドワークを取り入れ、人権学習のプログラムに組み込むことができました。

ある年の卒業生が「立江中学校での一番の思い出は、毎日毎日の友と過ごした学校生活です」と言っていました。常にまっすぐに真剣に取り組む生徒たちであり、思いやりにあふれた生徒たちでした。この生徒たちや教職員の皆さんとともに過ごした2年間は私の宝物となっています。

